

国立国語研究所学術情報リポジトリ

『方言文法全国地図』と表現法

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大西, 拓一郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002943

『方言文法全国地図』と表現法

大西拓一郎（研究開発部門第二領域）¹

1. 方言文法の研究の動向

日本語研究全般において、文法を対象とした研究が、盛んであるのが近年の傾向である。その中でも、特にここ数年、方言を対象とした研究が増加している。共通語だけでは見えてこない枠組みや語形が方言には存在し、それらの性質や成立過程を追うことで、文法の本質に接近できると考えられるからと判断する。若手研究者の成長も著しく、また、従来にくらべて研究の質も向上しており、好ましい方向にある。

2. 『方言文法全国地図』（GAJ）

国立国語研究所では、方言の文法に関する全国資料を提示することを目的として、『方言文法全国地図』（GAJ）の編集・刊行を行ってきた。文法事象を地図にすることで分布のありかたが視覚的にとらえられ、そこから多大な研究情報を得ることができる。

GAJのための隣地調査は、1979年から1982年にかけて実施した。地点数は、全国807地点である。話者は、原則として、各地点1名であり、調査時点で60歳以上、各地点生え抜きの男性を対象としている。また、調査は、都道府県単位で方言の専門家に依頼し、70名強の研究者があたった。

調査内容は、助詞・活用などの形態論的単位から、今回の発表対象となる「表現法」、また現在編集中の待遇表現など、267項目で、方言の文法を考察する上での基本的な項目が含まれている。

地図集は、全体で6巻になることを予定しており、2002年12月現在で第5集まで（合計地図数270枚）刊行されている。各集の内容は、第1集が助詞編、第2・3集が活用編、第4～5集が表現法編となっている（第6集は、待遇表現を予定）。

GAJは、資料性を重視して編集を行っている。その方針にしたがって、多くのデータをweb上で公開している（<http://www.kokken.go.jp/hogen>）。資料一覧（調査報告された原資料の一覧）のもとになっているデータから、編集を完了した地図データ、また、諸種のプログラムなどが利用できるようになっている。

3. 表現法とは

今回の発表で分析の対象とするのは、原則として第4・5集「表現法編」の項目である。この「表現法」であるが、実は、厳密な定義があるわけではない。第4集の解説書では「状況（文脈や場面）・内容・意図などに応じて用いられる各地方言の言語形式」としているが、第1～3集であっても同様なことがあてはまり、排他的な定義にはなっていない。ただし、例えば、「活用編」とした第2・3集と比較するなら、焦点をあてる箇所が「活用編」では、動詞や形容詞といった用言にあったのに対し、「表現法編」では、それぞれの「表現」（カテゴリ）を形成する助辞部分にあるという点が大きく異なる。

このことはつまり、文法的な内容に重心を移行させたことを意味しており、表現形態もさるこ

¹連絡先) takoni@kokken.go.jp

とながら、文法的内容にもかなり比重を置いていることにほかならない。このことにより、単純な否定や命令といった基本的なカテゴリから一歩進んで、意志・疑問などのモダリティやテンス・アスペクトのように、より「文法的」な項目が多く扱われる。また、「活用編」で扱った項目と共通性を持つものでも否定の過去や命令の場面差・発話態度差などそれぞれのカテゴリにさらに踏み込んだ項目を対象としている。

今回の発表会で対象となる第4・5集の内容を一覧化すると次のようである。

【第4集】

[否定表現]

- 第151図 行かなかった
- 第152図 行きはしなかった
- 第153図 行かなければ
- 第154図 行かないなら
- 第155図 行かないで
- 第156図 行かなくて
- 第157図 行かなくても
- 第158図 無かった
- 第159図 高くはなかった
- 第160図 高くはなかった
- 第161図 見はしない
- 第162図 来はしない
- 第163図 うん, 無いよ
- 第164図 うん, 無いよ
- 第165図 いや, 有るよ
- 第166図 いや, 有るよ

[条件表現]

- 第167図 降れば(船は出ないだろう)
- 第168図 降ったら(おれは行かない)
- 第169図 行くと(だめになりそうだ)
- 第170図 行ったら(終っていた)
- 第171図 行ったってだめだ
- 第172図 行ったってだめだ

[可能表現]

- 第173図 読むことができる<能力可能>
- 第174図 読むことができる<状況可能>
- 第175図 着ることができる<能力可能>
- 第176図 着ることができる<状況可能>
- 第177図 起きることができる<状況可能>
- 第178図 来ることができる<状況可能>
- 第179図 することができる<能力可能>
- 第180図 できる<能力可能>

- 第181図 書くことができる<属性可能>
- 第182図 読むことができない<能力可能>
- 第183図 読むことができない<状況可能>
- 第184図 着ることができない<能力可能>
- 第185図 着ることができない<状況可能>

[過去・回想表現]

- 第186図 おもしろかったなあ
- 第187図 おもしろかったなあ
- 第188図 行ったなあ
- 第189図 行ったなあ
- 第190図 いたよ
- 第191図 いたよ
- 第192図 書いたよ
- 第193図 書いたよ
- 第194図 強かったよ
- 第195図 強かったよ
- 第196図 いた
- 第197図 いるか

[アスペクト表現]

- 第198図 散っている<進行態>
- 第199図 散っている<結果態>
- 第200図 散リヨル<将然態>
- 第201図 死ニヨル<将然態>
- 第202図 有リヨル<進行態>
- 第203図 もう少しで落ちるところだった
- 第204図 もう少しで落ちるところだった
- 第205図 読んでしまった

【第5集】

[義務表現]

- 第206図 行かなければならない
- 第207図 行かなければならない
- 第208図 行かなければならない—総合図—

[命令表現]

- 第209図 起きろ(やさしく)—その1—

- 第210図 起きろ(やさしく)―その2―
 第211図 起きろ(やさしく)―総合図―
 第212図 起きろ(きびしく)―その1―
 第213図 起きろ(きびしく)―その2―
 第214図 起きろ(きびしく)―総合図―
 第215図 開ける(やさしく)―その1―
 第216図 開ける(やさしく)―その2―
 第217図 開ける(やさしく)―その3―
 第218図 開ける(きびしく)―その1―
 第219図 開ける(きびしく)―その2―
 第220図 開ける(きびしく)―その3―

[禁止表現]

- 第221図 行くなよ(やさしく)
 第222図 行くなよ(やさしく)
 第223図 行くなよ(きびしく)
 第224図 行くなよ(きびしく)
 第225図 行ってはいけない
 第226図 行ってはいけない

[希望表現]

- 第227図 行きたいなあ
 第228図 行きたいなあ
 第229図 行きたくない―その1―
 第230図 行きたくない―その2―
 第231図 行ってもらいたい

[意志表現]

- 第232図 行こうと思っている
 第233図 行こうと思っている
 第234図 行くまい

[勧誘表現]

- 第235図 行こうよ
 第236図 行こうよ

[推量表現]

- 第237図 行くだろう
 第238図 行くのだろう
 第239図 行っただろう
 第240図 雨だろう

[様態表現]

- 第241図 降りそうだ
 第242図 良さそうだ

[伝聞表現]

- 第243図 雨だそうだ―その1―
 第244図 雨だそうだ―その2―
 第245図 雨だそうだ―その3―
 第246図 雨だそうだ―総合図―
 第247図 高いそうだ―その1―
 第248図 高いそうだ―その2―
 第249図 高いそうだ―その3―
 第250図 いたそうだ―その1―
 第251図 いたそうだ―その2―
 第252図 いたそうだ―その3―

[疑問表現]

- 第253図 誰かが(知っているだろう)
 第254図 どこかに(あるだろう)
 第255図 いつか(聞いたことがある)
 第256図 (それは)何か
 第257図 誰が行くか(分らない)
 第258図 誰が行くか(分らない)

[反語表現]

- 第259図 誰がやるものか
 第260図 誰がやるものか―その1―
 第261図 誰がやるものか―その2―

[授受表現]

- 第262図 もらった
 第263図 やった
 第264図 やったか
 第265図 やったか
 第266図 くれ

[あいさつ表現]

- 第267図 ありがとう―短い形―
 第268図 ありがとう―長い形の前半―
 第269図 ありがとう―長い形の後半―
 第270図 ありがとう―総合図―

もちろん、これらすべての項目を今回の発表会での分析の対象とするわけではない。むしろ、これから先、おおいに研究対象となりえる項目が多く含まれていることが、一覧からも理解されるだろう。

なお、第5集では、当初地図化を予定していたものの、時間や労力、また、地図集に収載可能

な地図枚数の制限などから地図化を行わなかった項目がある。それは、以下の 12 項目である(《 》内は調査票における質問番号)。

《155》 行く	《173》 病氣らしい
《156》 行くんだ	《177》 富士山のようにだ
《157》 あの花の美しいこと	《186》 行くか行かないか
《162》 行きたくてたまらない	《192》 良いのかな
《166》 行かないだろう	《194》 やらないことがあるものか
《169》 行ったのだろう	《195》 来るんだって

これらは第 5 集の資料一覧に収録して、データの閲覧を可能にするとともに、先に記した web ページ上でもデータを公開している。今回の発表でも一部このデータを利用したものがある。誰でも利用可能になっているので、今後も有効な利用がのぞまれる。

4. 今回の発表について

冒頭にも記したとおり、特にここ数年、方言文法に関する研究が盛んに行われており、「表現法編」で扱う項目は、全体として近年の文法研究、それに連動する方言文法研究の分野と重なるものである。その点で、タイムリーな発表会と位置づけられるであろう。

今回の発表では、表現法と言われる分野にどのような地理的分布が見られるのか、それぞれにどのような方法でアプローチすればよいのか、従来通りの方法が適用できるのか、適用できないとしたら、どのような方向が新たに期待されるのか、といったことを具体的に地図を提示しながら分析することになる。有意義な意見が多く交わされることを期待したい。